

5. ユニバーサルデザインチェック表活用について

目的：

支援教育の授業力向上

- 1 日常的に、ユニバーサルデザインの視点をもって授業を行うことができるようにしていく
- 2 授業者が行なっているユニバーサルデザインも参観者が価値づけすることより、授業者自身の気づきや振り返りにつなげていく

方法：

研究授業に参観する教員が活用する。授業者は授業の前後等にセルフチェックとして活用する
チェックしたものは授業後の全体会での活用や授業者に渡す

ユニバーサルデザインチェック表

(し)

活動	時間の構造化	本時の流れを視覚的に示している	
		活動時間を視覚・聴覚的に示している	
	教室の構造化	座席の配慮がされている。(見やすさ、聞きやすさ)	
	刺激量の調整	授業に関係ない掲示物や装飾はない(音も含め)	
	ルールの明確化	質問の仕方・意見の伝え方・話し合いの仕方などのルールがある 例：私は〇〇だと思います。	
	クラスの理解促進	児童同士がお互いの良いところや個性を生かす視点で関わっている	
理解	共有化	児童の実態にあった学習形態が取られている 例：ペア、グループ、全体等	
	感覚の活用	五感を刺激するような体験的な活動を取り入れている	
	視覚化	ICT を効果的に活用している	
	スモールステップ化	児童一人ひとりにあった配慮がされている (手立てがある)	
	展開の構造化	児童が考える・共有する・表出する場面を設定している	
	焦点化	発問が明確で、児童に伝わっている	
復習	スパイラル化	既習したことが本時に組み込まれている	
活用	適用化・機能化	学習したことを日常生活に生かせるよう児童に伝えて いる。例：まとめて「〇〇でも生かせるね」と般化	
児童とのかかわり	人的環境	ネガティブな言葉がけよりポジティブな言葉がけが多い。	

よかったポイント（一言）